

# 彝族の諺である「ルビ」収集資料について

## Concerning Books Collecting the Yi “Lubyx” Proverbs

清水 享<sup>a</sup>

Toru Shimizu<sup>a</sup>

### Abstract

The Yi people, a non-Han ethnic group living in China's Sichuan, Yunnan, and Guizhou provinces, call proverb “Lubyx”. Lubyx are told based on the unique life of the Yi people, and condense their life, society, and culture. Most Lubyxs are related in the form of short sentences, which consist of five or seven sounds and are told in two to five sentences. This paper looks back on the publication of books collecting Lubyx starting in the 1970s, and summarizes some aspects of Lubyx research from these Lubyx collections.

Key words: 彝族, 諺, ルビ, 彝文

### 1. はじめに

#### 1.1. 涼山彝族

四川省, 雲南省, 貴州省など中国の西南地方に彝族は居住している。人口は約871万人を数える<sup>i</sup>。そして彝族の文化, 社会, 生活習慣, 方言などの様相は各地域で異なり, それぞれの地域に多くのサブエスニックグループを形成している。そのなかでも四川省涼山地方に居住する彝族(以後, 涼山彝族と表記)は「ノス」を自称し, 山岳地帯を中心に住んでいる。他地域の彝族は漢民族の文化を強く受け, いわゆる「漢化」が少なからず進んだ。それに対して涼山彝族の居住する地域は山岳地帯のため, 漢民族など他民族はほとんど居住せず, 現在でも彝族独自の言語や文化, 生活習慣を色濃く伝えている。

四川省涼山地方に集中的に居住しているこの涼山彝族は20世紀半ばまで黒彝・白彝からなる厳格な階層社会を形成していた<sup>ii</sup>。そして彝族はアニミズムと祖

先崇拜を軸とした独自の信仰を有し, それに基づいた儀礼を行なっている。こうした信仰や儀礼は主に宗教職能者である「ꞑꞑ (bimop, ピモ, 畢摩)」(以下「ピモ」と表記)がこれを主宰する。ピモは現在でも涼山彝族社会に数多く存在し, 活発に活動を行なっている。

彝族の言語である彝語<sup>iii</sup>はビルマ=チベット語派に属する単音節言語である。文法的を見ても動詞は目的語の後ろに置かれる。彝語は彝族が居住する全地域で話されており, その方言差から, 方言地域は6つに区分される<sup>iv</sup>。それぞれの方言の基礎的語彙は共通するものの発音などに大きな差異があり, 異なる方言では意思の疎通が難しい。涼山彝族が話す彝語は北部方言に属する。他の方言地域の彝語話者は漢語の影響を受け, 言語人口が減少する傾向が見られるが, 北部方言地域では彝語を母語とする人々が現在でも多く, 彝語による言語文化も広く継承されている。

彝族は独自の言語のみならず独自の文字である彝文(彝文字, 以下彝文と表記)を有する<sup>v</sup>。彝文はどの時

<sup>a</sup> 日本大学スポーツ科学部

College of Sports Sciences, Nihon University

i 中華人民共和国国家民族事務委員会, 中華各民族, 彝族, 概況」<https://www.neac.gov.cn/seac/ztlz/yz/gk.shtml> 2023年9月29日閲覧, なおこれは2010年の統計データであるが, 現在開示されている情報としては最新のものといえる。

ii 涼山彝族は1950年代に実施された「民主改革」以前は, 支配層のズモ, ノホと被支配層のチュホ, アジャ, ガシに別れ, 明確な階層差があった。

iii 「ロロ語」とも称される。ロロとは彝族を表す名称の1つであり, 漢字では「俛羅」などと表記される。

iv 「彝語方言は四川などの北部方言, 雲南東部, 貴州などの東部方言, 雲南西部の西部方言, 雲南中部の中部方言, 雲南東南部の東南部方言, 雲南南部の南部方言の6つに区分される。

v 「ロロ文字」とも称される。



とする者がほとんどである。漢語など他言語を母語とする研究者は少ない。外国におけるルビ研究は皆無であり、もちろん日本においてもルビに関する研究の蓄積は全くなく、彝族文化に関する論考においてもルビはほとんど取り上げられたことはない。本稿ではルビの収集整理とルビ集の刊行を振り返る。そして現在までのルビ研究動向の一端を概観する。ルビに関する研究史そのものについては紙幅の関係により、次回に譲りたい。

## 2.1. ルビの収集整理とルビ集の刊行

### 2.1.1. 1970年代～1990年代刊行のルビ集について

涼山彝族の諺であるルビを収集したルビ集の最も古いものが1970年代後半に刊行された。それが曲比石美〔他〕収集翻訳、馮元蔚〔他〕整理校訂『涼山彝文資料選訳 第三集 爾比爾吉』（《涼山彝族社会》編写組、成都、1978）<sup>vii</sup>である。本書に収録したルビは曲比石美、馮元蔚、蘆学良、沈文光が収集して漢語に翻訳し、それを曲比石美、馮元蔚が整理校訂を行なった。涼山各地で収集したルビが760句あまり収録されている<sup>8)</sup>。方言差などを整理し、国务院の批准前であったが、規範彝文を用いてルビを18に分類してまとめている。この18分類であるが、詳細が明記されておらず、どのような分類規準であるのか不明確である。また全てのルビには漢語訳が附記されている。さらに付録として「クンジ」が5首収録されている。本書は『涼山彝文資料選訳』といったシリーズの「内部発行」の刊行物であり、正式出版ではなかった。シリーズには英雄譚「 $\text{Hnewotepyy}$ 、ヌウウォテジ」や婚姻についての女性の嘆きを歌う抒情詩「 $\text{Axmohnixsse}$ 、アモホニヒィザ」が収められている。

1980年代にいち早くルビを収集した刊行物として、喜徳県文教局、喜徳県語言文字工作委員会編『 $\text{Nuosukepnreplubyxsinipbbudde}$ 、ノルルビクンジシニブダ、彝族克智爾比と故事』（民族出版社、北京、1980）がある。本書は喜徳県政府の言語文字政

策関係部署から刊行されたものであり、ルビだけでなく朗誦詩であるクンジと「民間故事（民話）」を規範彝文で収録している。ルビだけを収録したものではないが、正式出版によって刊行されたルビ集としてはかなり早い時期ものといえる。

1981年には四川民族事務委員会彝語文工作組編『彝族格言（彝文版）』（四川民族出版社、成都、1981）が刊行された。四川民族出版社から刊行されたものであるが、本書はルビ集としての初の正式出版であった。馬黒木呷、馬明、羅家修、趙宇光が3,100句あまりのルビを収集した<sup>9)</sup>。本書は彝語の「注音符號」<sup>viii</sup>順でルビを配列している。この注音符號順のルビの配列は、後のルビ集にも引き継がれた体裁の1つとなった。本書は1985年に新装版も刊行されている。

涼山彝族のルビについて早い時期から注目していたと思われる人物に民国時代に涼山彝族の土司であった嶺光電がいる。彼は民国時代に土司<sup>ix</sup>という政治的な立場にありながら彝族文化に対して関心が高く、1940年代から彝文經典の翻訳<sup>9)</sup>や民間説話の収集刊行を行なっている<sup>9)</sup>。この嶺光電が1980年代にルビ集を刊行した。これらは全て正式出版ではなく、「油印本（謄写版）」として刊行されたものだった。そのなかでも嶺光電訳『諺語（ $\text{Luby}$ 、ルビ）』（上）（中）（下）（中央民族大学民族語言研究所彝族歴史文献編訳班、北京、1982-1983）は、上中下の3分冊だった。そして本書の彝文は規範彝文でなく、手書きの彝文に漢語訳とIPA（国際表音記号）を附したものであった。特徴的なのは、彝文の逐語訳と文全体の訳の2種類の漢語訳が付されていることである。また上中下巻に収録されているルビは合計2,000句にのぼる<sup>10)</sup>。前章で述べたように、それを16分類している。嶺光電は他に『涼山彝族有関婦女的諺語（ $\text{Nipshan-uosusihnimupmitluby}$ 、ネシャノスシニヒィムミィルビ）』（中央民族大学民族語言研究所彝族歴史文献編訳班、北京、1982(?)）も同時期<sup>11)</sup>に「油印本（謄写版）」により刊行している。本書の体裁も基本的には『諺語（ $\text{Luby}$ 、ルビ）』と同じであり、女性に関するルビ

vii 本稿でルビ集として言及する刊行物は紙幅の制限により、書誌情報は本文に示し、引用参考文献には示さない。以下全ての刊行物の書誌情報も同じように示す。

viii 涼山彝語のアルファベット表記のことであり、独自の表記法によって示される。

ix 非漢民族の首長に官位を与えて、その地を間接的に統治する方法である。

を整理分類して収録した。分類は「父母、子女、女兒、美、婚姻、婆家(実家)、処家(家事)、感情、習慣法、親戚、其它(その他)」の11分類であり<sup>12)</sup>、合計約280句を掲載している。ルビの翻訳作業を進めた嶺光電は1980年代に中央民族学院民族語言研究所彝族歴史文献専修班の教員として<sup>13)</sup>、こうしたルビ集以外に多く彝文文献の翻訳を進めて「油印本(謄写版)」の彝文文献翻訳集を刊行していた。

「油印本(謄写版)」のルビ集には、他に1981年に刊行された中央民族語研所彝族歴史文献編訳室編『彝族格言』(中央民族学院語研所彝族歴史文献編訳室、北京、1981)がある。本書は張仲仁などが彝族の格言をまとめた文献の翻訳である<sup>14)</sup>。文献は彝文の字体から雲南省武定、禄勸付近の東部方言地域のものであり、涼山地方のものではない。ルビは彝文とIPA(国際表音記号)および漢語対訳で示されている。このような涼山彝族以外の地域のルビ集の刊行も以後見られるようになる。さらに「油印本(謄写版)」で刊行されたルビ集には西南民族学院語文系彝語言文学教学組編『ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠶ᠔ᠡᠭᠡ(Nuosulubyxge、ノスルビグ、彝族謄集』(西南民族学院語文系彝語言文学教学組、成都、1988)がある。本書は1988年に刊行されたもので、すべて規範彝文で書かれて、彝語の注音順に整理され、収録されている。

1982年には楊植、森頼偉、吉木布初、阿魯斯基、張克新編『涼山彝語諺語』(四川民族出版社、成都、1982)が刊行された。本書はすべて漢語に訳したルビが収録されており、彝文は全く示されていない。ルビを8分類しているが、詳細は明記されておらず、分類の基準は不明である。

1980年代はこの他に涼山地方北部に位置する甘洛県のルビを収集した甘洛県語委集成辦編『甘洛県民間諺語集』(甘洛県語委集成辦、四川甘洛、1988)があり、1988年に刊行された。本書には3,500句あまりのルビが規範彝文と漢語の対訳の形式で収められているが<sup>15)</sup>、有意な配列にはなっていない。本書を編纂した「語委集成辦」は語言文字工作員会民間故事集成辦公室のことであり、後述する「民間文学集成」の事業を担当し

た部署である。

1989年には楊繼中、盧培林収集整理、加甲・張仲仁翻訳『彝族諺語選』(雲南民族出版社、昆明、1989)が刊行された。本書は四川、雲南、貴州の彝族地域に伝わるルビを563句収録している<sup>16)</sup>。前半に漢語訳が示され、後半に雲南規範彝文<sup>x)</sup>によるルビが掲載されている。そしてこれらのルビは「風土篇」、「農牧篇」、「訓戒篇」、「諷諭篇」の4章に分類されている。

1990年に入ると、まず1990年に涼山州<sup>xi)</sup>民間文学三套集成編委会編『ᠯᠤᠪᠢᠶ᠔ᠡᠭᠡ(Lubyxluji、ルビルジ、爾比爾吉)』(涼山州民間文学三套集成編委会、四川西昌(?), 1990)が刊行された。本書は「油印本(謄写版)」であり、ルビは手書きの彝漢対訳で掲載されている。編者は涼山州民間文学三套集成編委会とあり、この「民間文学三套集成」とは1980年代から行われた「中国民間故事集成」、「中国歌謡」、「中国諺語集成」の収集編纂事業である。本書はこの収集編纂事業において涼山彝族のルビの基礎資料を収集整理したものと考えられる。この「油印本(謄写版)」の刊行物を基礎として、1995年に涼山民間文学集成編委会編『中国民間文学集成涼山卷諺語卷』(涼山州文学芸術界連合会、四川西昌、1995)が刊行された。本書は民間文学集成編纂委員会が中心となって涼山彝族自治州内のルビ10,956句を収集し<sup>17)</sup>、馬徳清が主編となって整理分類され、刊行された。収録されたルビは「時政類」、「事理類」、「社交類」、「修養類」、「生活類」、「生産類」、「其他類」の7つに分類され、規範彝文による彝漢対訳の形式で示されている。ただし、全約200ページであり、収集したルビすべてが収録されているわけではなかった。また「前言」の後に、ルビの解説も漢語で付記されている。

涼山地方ではないが、1990年に貴州省において赫章県民族事務委員会彙集『彝族民間文学第1輯』(赫章県民族事務委員会、貴州赫章、1990)が刊行された。貴州西北部に位置する赫章県の彝族の諺を収集したものである。本書はすべて漢語で記されており、彝族の諺のみならず歌謡も収録されている。

1990年代には涼山州編訳局もルビを収集した。そし

x 雲南省で標準化した彝文であり、1987年に試行され、1995年に改訂修正された。約2,600文字からなるが、方言差の大きな彝語の共通文字としての普及にまでは至っていない。

xi 正式名称は涼山彝族自治州。本稿では全て涼山州と表記。



て1992年から1995年にかけて涼山州編訳局編『诺苏尔比积义 (Nuosulubyxhxati, ノスルビハティッ, 彝族爾比积義) I・II・III』(四川族出版社, 成都, 1992・1993・1995)が刊行された。1992年に第1分冊が、翌年に第2分冊が刊行され、そして1995年に第3分冊が刊行された。この3分冊はルビとその解説が全て規範彝文によって書かれている。またルビに関する概要は規範彝文と漢語で記されている。ルビの配列は規範彝文の注音順である。ルビには1句1句全てに規範彝文による解説が示されている。ルビは第1分冊で2,000句あまり収録されていることが明記されているが<sup>18)</sup>、第2, 3分冊には収録数は明記されていない。全体の収録数は単純な推計をしても、少なくとも6,000句以上あると考えられる。涼山彝族自治州編訳局はさらに内容を補充発展させた『诺苏尔比词典 (Nuosulubyxddopzhy, ノスルビドジ, 彝族爾比詞典)』(四川族出版社, 成都, 2000)を2000年に改めて刊行した。本書は前述したように、10,330句のルビが収録されている<sup>19)</sup>。すべて規範彝文で書かれた本書のルビも規範彝文の注音順で示されており、『诺苏尔比积义 (Nuosulubyxhxati, ノスルビハティッ, 彝族爾比积義)』と同様にルビ1句1句全てに規範彝文による解説が付記されている。上記の2部のルビ集はその収録数の多さと詳細な解説内容から、涼山彝族のルビを収集した資料として最も重要なものであるといえよう。

雲南省の彝族のルビ集も刊行された。1992年に李成智、陽輝普、拉基採録翻訳、禄勸県彝族苗族自治県民委民族古籍辦編『彝族民間諺語』(雲南民族出版社, 昆明, 1992)が刊行された。本書のルビの収集地について、「前言」にも「後記」にも明記はされていないが、禄勸県民族事務委員会民族古籍辦公室が編纂しており、雲南北部に位置し、彝語の東部方言地域である禄勸県内の彝族のルビであるといえよう。ルビは6分類され、東部方言の彝文とその国際表音記号(IPA)が記され、漢語訳も付記されている。貴州省に居住する彝族のルビ集も刊行された。1992年には楊浩青、張和平、陳光明編、陳光明訳『彝族諺語讀本』(貴州民族出版社, 貴陽, 1992)が刊行された。本書には貴州

彝族のルビが700句ほど収録されている。本書は貴州彝族教育の教本の1つとして編纂されたものだった<sup>20)</sup>。ルビは15分類され、貴州彝文に漢語を附記した体裁をとっている。

1996年には雲南省路南県(現石林県)の彝族のルビを収集した中共路南彝族自治县委宣传部、路南彝族自治州文化館編『路南諺語 雲南民間文学集成』(雲南民族出版社, 昆明, 1996)が刊行された。路南県(現石林県)の彝族は彝語の東南部方言を話し、自称は「サニ」である。本書に収録されたルビは7分類されている。このような「民間故事集成」には、他に雲南省の東北部に位置する昭通市の彝族のルビを収録した昭通市文化局・民族事務委員会編『云南民間文学集成 昭通市彝族卷』(昭通市文化局・民族事務委員会, 雲南昭通, 1996)があり、本書は同じ年に刊行されている。本書はすべて漢語で記されているが、彝族の神話、伝説、故事、歌謡とともにルビが収録されている。路南県(現石林県)、昭通市のどちらも「民間文学集成」の事業として各縣市によって編纂されたものだった。

1990年代にはこの他に小涼山地方<sup>xii)</sup>と呼ばれる雲南省寧蒗県のルビを収集した肖建華、蘇学文訳注『雲南小涼山彝族爾比』(雲南民族出版社, 昆明, 1996)も刊行された。本書にはこの地域で収集されたルビが4,100句ほど規範彝文と漢語による対訳の形式により、その内容から「歴史時政」、「事理」、「修養」、「社交」、「生活」、「自然」、「生産」の7分類された上で、収録されている<sup>21)</sup>。

## 2.1.2. 2000年代以降に刊行されたルビ集

2000年代にはまず、2006年に越西彝学会編『维托诺斯克尼日比 (Vyttuonuosukepnreplubyx, ヴイトノスクンジルビ, 越西彝族克智尔比)』(越西彝学会, 四川越西, 2006)が刊行された。本書は涼山州越西県で収集されたクンジとルビが全文規範彝文でまとめられている。

2007年には彝族文化研究所からポケット版のルビ集が刊行された。それが吉克曲日主編『诺苏尔比读本 (Nuosulubyxlujisidazzit, ノスルビルジシタズィ, 彝族格言积義選集)』(涼山州彝族文化研究所, 四川西昌,

xii) 涼山地方の中心地帯は通称「大涼山」と呼ばれ、その東側および西側は通称「小涼山」と呼ばれる地域であり、雲南省寧蒗県は西側の小涼山地方である。



西康出身の作家であり、本書と同時に短編小説選、文学評論、詩集、彝学（彝族研究）に関する著作を刊行している。

上記のようなルビ集以外に光学メディアを媒体としたルビ集もあり、注目される。刊行年は不明であるが、涼山地方北部の美姑県がこうした光学メディアを媒体として中国共産党美姑県委員会、美姑県政府、美姑県依法治県領導小組編『美姑彝族伝統格言』（美姑県政府、四川美姑、刊行年不明）を刊行している。美姑県依法治県領導小組は法による統治を指導する小委員会であり、ルビを利用して法による統治を人々に周知させようとしたものである。

### 3. 小結

彝族の諺であるルビを収集整理して、刊行が行われ始めたのは1970年代後半からであった。1980年代には喜徳県文教局や四川省民族事務委員会彝語文工作組からルビ集が刊行された。また元土司であり彝族文化に関心が高かった嶺光電による「油印本（謄写版）」のルビ集もこの時期に刊行された。同じくこの時期に漢語訳のみによる涼山地方のルビ集も刊行されたが、涼山地方では漢語のみのルビ集はほとんどなく、珍しい事例であった。そして1980年代後半から四川省涼山地方のみならず、貴州や雲南の彝族のルビを収集した刊行物が編纂されるようになった。

1990年代になると「民間文学三套集成」の編纂事業によりルビ集が涼山州で編纂されたが、涼山州のみならず、貴州省赫章県、雲南省路南県、昭通市などの各地で「民間文学集成」の一環として彝族のルビ集が編纂されるようになり、ルビへの関心も高まってきた。そして1992年から4年がかりで『诺苏鲁比哈义』（Nuosulubyxhaxati, ノスルビハティツ、彝族爾比积義）I・II・III』が刊行された。本書は涼山地方のルビに関してのいわば集大成であるといえよう。ルビ集の多くはルビを収録した上で彝文と漢語訳を附記しただけでルビについての解説のないものがほとんどであるなか、本書は全て規範彝文ではあるが、1つ1つのルビに詳細な解説が付記されていた。これは特筆されるべきものである。そして本書の内容を改訂増補したのが2000年に刊行された『诺苏鲁比积义』（Nuosulubyxddopzhy, ノスルビドジ、彝族爾比詞典）』であり、内容はさらに

充実したものとなっていた。これらのように詳細なルビの解説を加えたルビ集は他にほとんど見られない。

涼山地方から刊行されたルビ集は基本的に規範彝文によって書かれ、それに漢語訳を附記しているものがほとんどである。雲南や貴州のルビ集については漢語訳のみの表記、雲南規範彝文、貴州彝文など各地の彝文に漢語訳を附記した形式のものが多い。

2000年代になると、涼山地方のルビ集が立て続けに刊行され、このようななかで『诺苏鲁比克智积读』（Nuosulubyxkepnrepzhyxibi, ノスルビクンジジビ、彝族爾比克智积读）のように彝文を学ぶ教材として編集されたルビ集も現れた。2010年代以降はさらにルビ集の刊行は活発化し、数多くのルビ集が編纂された。そして『鲁比沙比』（Lubyxsidabi, ルビシタビ、彝族經典爾比選讀）のように規範彝文のルビに漢語訳と英語訳が併記されたルビ集が刊行された。英語訳が付記されたルビ集の刊行はこれがはじめてであり、他に類を見ない。また近年、映像によるデータを収録した光学メディアのルビ集の刊行もみられた。こうしたルビ集は、明解にルビについて知りうるができるため、今後各地から刊行されることが予想される。

2020年代もルビ集の刊行は続き、貴州彝文のルビ集や雲南省元江県の彝語南方方言地域のルビ集も刊行された。現在の彝族のルビ集刊行の状況を振り返ってみると、今後も継続的にルビ集は刊行されていくであろう。ルビは諺であり、そこには彝族の人々の社会、文化、思考、生活、習慣が広く反映されている。そのためルビを整理収集したルビ集は彝族の人々のアイデンティティに深く関わり、現代の彝族文化を示すものとして数多く刊行されてきた。将来も彝族のアイデンティティが保持され続けていくのであれば、今後もルビ集の刊行は途切れることはないであろう。

本稿では彝族のルビ集の刊行に関して整理し、ほんのわずかであるが分析を加えたものである。彝族のルビそのものに関する研究史は次の機会に譲りたい。

### 引用参考文献および文献についての註記

- 1) 涼山州編訳局：『诺苏鲁比哈义』（Nuosulubyxhaxati, ノスルビハティツ、彝族爾比积義）I, 四川民族出版社, 成都, 1992, 196

- 2) 涼山州編訳局： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビハティツ, 彝族爾比积義) II, 四川族出版社, 成都, 1993, 103
- 3) 涼山州編訳局： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビハティツ, 彝族爾比积義) II, 四川族出版社, 成都, 1993, 170
- 4) 嶺光電訳：諺語 ( $\text{ᠯᠤᠪᠢ}$ , Luby, ルビ) (下), 中央民族大学民族語言研究所彝族歴史文献編訳班, 北京, 1983, [目次] 1
- 5) 涼山州編訳局： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビドジ, 彝族爾比词典), 四川族出版社, 成都, 2000, 「前言」 2
- 6) 曲比石美 [他] 収集翻訳, 馮元蔚 [他] 整理校訂：涼山彝文資料選訳 第三集 爾比爾吉, 《涼山彝族社会》編写組, 成都, 1978, 184
- 7) 四川省民族事務委員会彝語文工作組編：彝族格言, 四川民族出版社, 成都, 1981, 「前言」
- 8) 嶺光電：僊僊經典選訳, 西康青年, 第4巻5期, 西康青年社, 四川西昌, 1942, 45
- 9) 嶺光電：彝族民間故事, 上海時代書局, 上海, 1950
- 10) 嶺光電訳：諺語 ( $\text{ᠯᠤᠪᠢ}$ , Luby, ルビ) (下), 中央民族大学民族語言研究所彝族歴史文献編訳班, 北京, 1983, 「《諺語》的幾点説明」 1. ただ上巻の「諺語説明」では上巻に616句, 中巻の「説明」には750句が収録されているともあり, 下巻の「《諺語》的幾点説明」には3,600句の翻訳を行なったともある。
- 11) 温春来, 爾布什哈主編：嶺光電文集 (上冊), 香港科技大学華南研究中心出版, 香港, 2010, 4によると1982年ごろに彝文文献の翻訳集をいくつか刊行している。
- 12) 嶺光電：涼山彝族有関婦女的諺語 ( $\text{ᠨᠢᠯᠠᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$ , Nipshanususihnimupmitluby, ネシャノスシニヒムミイルビ) 中央民族大学民族語言研究所彝族歴史文献編訳班, 北京, 1982 (?), 「《涼山彝族有関婦女的諺語》目次」
- 13) 温春来, 爾布什哈主編：嶺光電文集 (上冊), 香港科技大学華南研究中心出版, 香港, 2010, 4
- 14) 中央民族学院語研所彝族歴史文献編訳室編：彝族格言, 中央民族学院語研所彝族歴史文献編訳室, 北京, 1981, 「付印説明」 1
- 15) 甘洛県語委集成辦編：甘洛県民間諺語集, 甘洛県語委集成辦, 四川甘洛, 1988, 「説明」
- 16) 楊繼中, 盧培林収集整理, 加甲, 張仲仁翻訳：彝族諺語選, 雲南民族出版社, 昆明, 1989, 「編者的話」 1
- 17) 涼山民間文学集成編委会編：中国民間文学集成涼山巻諺語巻, 涼山州文学芸術界連合会, 四川西昌, 1995, 「後記」
- 18) 涼山州編訳局： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビハティツ, 彝族爾比积義) I, 四川族出版社, 成都, 1992, 「前言」 3
- 19) 涼山州編訳局： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビドジ, 彝族爾比词典), 四川族出版社, 成都, 2000, 「前言」 2
- 20) 楊浩青, 張和平, 陳光明編, 陳光明訳：彝族諺語読本, 貴州民族出版社, 貴陽, 1992, 「序」 1
- 21) 肖建華, 蘇学文訳注：雲南小涼山彝族爾比, 雲南民族出版社, 昆明, 1996, 450
- 22) 吉克曲日主編： $\text{ᠨᠤᠰᠤᠯᠤᠪᠢᠬᠠᠬᠠᠲᠢ}$  (Nuosulubyxhxati, ノスルビルジシタズィ, 彝族格言积義選集), 涼山州彝族文化研究所, 四川西昌, 2007, 「編者的話」 5